

殺虫剤  
カルタップ水溶剤

# パダン<sup>®</sup>SG水溶剤

農林水産省登録 第18950号  
(住友化学(株)登録)  
性状：青緑色水溶性細粒  
毒性：劇物  
危険物：非該当  
有効年限：4年  
包装：100g×60, 500g×20

有効成分：カルタップ塩酸塩（化管法第1種） ····· 75.0%

殺虫剤分類

1 4

パダン<sup>®</sup>は住友化学(株)の登録商標です。

## 特長

- ネライストキシン系の殺虫剤（カルタップ剤）で、特に食害性害虫に高い効果を示します。
- 特異な殺虫作用：パダンは特に経口殺虫作用が強く、ごく少量の摂食で虫は速やかに麻痺し、死に至ります。稻のコブノメイガ、ニカメイチュウ、イネツトムシ、茶のチャノホソガなどのような作物の茎葉を食害する害虫に特にすぐれた効果を示します。また、パダンの殺虫効果のあらわれ方は特異的で、虫の動きがにぶくなって作物を食害できなくなり、死んでいきます。
- 散布適期の幅が広い：パダンは散布適期の幅が広く、安定した防除効果を示します。
- 抵抗性害虫にも有効：パダンは有機リン剤やカーバメート剤などとは殺虫作用が全く異なっていますので、他剤では効きにくくなってきた害虫にも高い効果を発揮
- ペースト肥料との混和による側条施用処理 パダンSG水溶剤のペースト肥料混和側条施用は、田植時にパダンSG水溶剤をペースト肥料に混和し、専用の側条施肥田植機で施用する省力的な処理方法です。
  - 田植、施肥、害虫防除の3つの作業を同時に行うことができ、コスト低減につながります。
  - 薬剤を水に溶かさずペースト肥料に直接混和して使用することもでき、省力的です。
- コナガにすぐれた効果：パダンはコナガに対し、強い殺卵作用、殺成虫作用、幼虫に対する長い残効性があり、また高温時の効果の持続性にもすぐれています。  
コナガ防除はなるべく早期から実施することが肝要であり、有機リン剤、合成ビレスロイド剤、BT剤、IGR剤等作用性の異なる薬剤とのローテーション防除で使用します。
- 溶けやすい顆粒タイプ：水に非常に溶けやすい薬剤です。
- 粉立ちが少なく使いやすい：顆粒剤のため、開封時、薬液調製時の粉立ちが少なくなります。

## 適用病害虫名及び使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10アール 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カルタップを 含む農薬の 総使用回数
稻	ニカメイチュウ コブノメイガ イネツトムシ	1500倍	60~ 150ℓ	収穫21日前 まで	6回以内	散布	6回以内 (浸種前は1回以内、 浸種後から直播での は種時又は 移植時までの処理は 1回以内)
	イネハモグリバエ	1500~ 3000倍					
	イネシンガレセンチュウ	—	—	浸種前	1回	24時間 種もみ浸漬	
はとむぎ	アワノメイガ	1500倍	60~ 150ℓ	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
とうもろこし 飼料用 とうもろこし	アワノメイガ アワヨトウ ツマジロクサヨトウ	1000~ 1500倍	100~ 300ℓ	収穫21日前 まで	2回以内	散布 無人航空機 による散布	2回以内
	アワノメイガ	8倍					
		16倍	1.6ℓ				
もも ネクタリン すもも	アブラムシ類 クビアカツヤカミキリ	1500倍	200~ 700ℓ	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
おうとう	アメリカシロヒトリ	1500倍	200~ 700ℓ	収穫前日 まで	1回	散布	1回
かき	チャノキイロアザミウマ カキホソガ イラガ フタモンマダラメイガ	1500倍	200~ 700ℓ	収穫45日前 まで	4回以内	散布	4回以内
	カキノヘタムシガ	1500~ 3000倍					
くり	モノゴマダラノメイガ ネスジキノカワガ	1500倍	200~ 700ℓ	裂果前	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	10アール 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カルタップを 含む農薬の 総使用回数	
びわ びわ(葉)	ナシヒメシンクイ	1500倍	200~ 700ℓ	春芽伸長初期まで 但し、収穫90日前 まで	4回以内	散布	4回以内	
ぶどう	チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ スカシバ類	1500倍	200~ 700ℓ	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内	
キウイフルーツ	キイロマイコガ キウイヒメヨコバイ	1500倍	200~ 700ℓ	収穫30日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
キャベツ	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ナメクジ類	1500倍	100~ 300ℓ	収穫14日前 まで	4回以内	散布	4回以内	
	アオムシ コナガ	24倍	1.6~ 3.2ℓ			無人航空機 による散布		
		48倍	3.2ℓ					
はくさい	コナガ アオムシ アブラムシ類 カブラハバチ ナメクジ類	1500倍	100~ 300ℓ	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
かぶ	キスジノミハムシ	1500倍	100~ 300ℓ	収穫3日前 まで	3回以内	散布	7回以内 (は種時の 土壤混和は 1回以内、 散布は3回以内、 株元散布は 3回以内)	
だいこん	コナガ アオムシ アブラムシ類 カブラハバチ キスジノミハムシ ハモグリバエ類	1500倍	100~ 300ℓ	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
てんさい	シロオビノメイガ	1500倍	100~ 300ℓ	収穫7日前 まで	4回以内	散布	4回以内	
はつかだいこん	コナガ	1500倍	100~ 300ℓ	収穫7日前 まで	1回	散布	1回	
なばな類	コナガ アブラムシ類	1500倍	100~ 300ℓ	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
プロッコリー	コナガ	1500倍	100~ 300ℓ	収穫7日前 まで	4回以内	散布	4回以内	
チンゲンサイ	ハモグリバエ類 コナガ キスジノミハムシ	1500倍	100~ 300ℓ	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
さやえんどう 実えんどう	ウラナミシジミ ナモグリバエ	1500倍	100~ 300ℓ	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内	
さやいんげん	マメハモグリバエ	1500倍	100~ 300ℓ	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内	
ほうれんそう	ミナミキイロアザミウマ アシグロハモグリバエ シロオビノメイガ	1500倍	100~ 300ℓ	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内	
レタス	ハモグリバエ類 ナメクジ類 アブラムシ類	1500倍	100~ 300ℓ	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
非結球レタス	ハモグリバエ類 ナメクジ類 アブラムシ類	1500倍	100~ 300ℓ	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内	
たまねぎ	アザミウマ類	1500倍	100~ 300ℓ	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内	
ねぎ	さび病 アザミウマ類 クロバネキノコバエ類 ハモグリバエ類	1500倍	100~ 300ℓ	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内	

作物名	適用病害虫名	希釀倍数	10アール 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カルタップを 含む農薬の 総使用回数
ばれいしょ	ジャガイモガ若齢幼虫	1500倍	100～ 300ℓ	収穫7日前 まで	6回以内	散布	7回以内 (種いも粉衣は 1回以内、 散布は6回以内)
さといも	ネグサレセンチュウ	300倍	100～ 300ℓ	植付前	1回	30分間 種いも浸漬	1回
しょうが	アズキノメイガ アワノメイガ	1500倍	100～ 300ℓ	収穫7日前 まで	5回以内	散布	5回以内
くわい	ハスモンヨトウ	1500倍	100～ 300ℓ	収穫30日前 まで	3回以内	散布	3回以内
ふき	アザミウマ類 アブラムシ類 フキノメイガ	1500倍	100～ 300ℓ	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
ふき (ふきのとう)	アザミウマ類 アブラムシ類 フキノメイガ	1500倍	100～ 300ℓ	収穫120日前 まで	2回以内	散布	4回以内 (水溶剤の処理は 2回以内、 粒剤の処理は 2回以内)
しそ	アザミウマ類	3000倍	100～ 300ℓ	収穫3日前 まで	2回以内	散布	2回以内
ホップ	アズキノメイガ アサノミハムシ	1500倍	200～ 700ℓ	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
茶	チャノホソガ チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ	1500倍	200～ 400ℓ	摘採10日前 まで	1回	散布	1回
いぐさ	イグサシンムシガ	1500倍	100～ 300ℓ	—	3回以内	散布	3回以内
ガーベラ	マメハモグリバエ	1500倍	100～ 300ℓ	—	4回以内	散布	4回以内
	ミカンキイロアザミウマ		発生初期				
シクラメン	ミカンキイロアザミウマ	1500倍	100～ 300ℓ	発生初期	5回以内	散布	5回以内
樹木類 (さくらを除く)	シャクトリムシ類	1500～ 3000倍	200～ 700ℓ	発生初期	3回以内	散布	3回以内
さくら	シャクトリムシ類	1500～ 3000倍	200～ 700ℓ	発生初期	3回以内	散布	3回以内
	クビアカツヤカミキリ	1500倍	200～ 700ℓ	成虫発生期	3回以内	散布	3回以内

#### 使用上の注意事項

- 本剤を使用した場合には、チオシクラム又はベンスルタップを含む剤は使用しないでください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- イネシンガレセンチュウ防除のため種もみ消毒をする場合、催芽種では薬害のおそれがあるので催芽前に処理してください。
- ボルドー液と混用する場合は使用直前に混合してください。
- あぶらな科野菜に使用する場合、夏季高温時の苗や軟弱な苗に対しては薬害を生じるおそれがあるので、このような苗には使用しないでください。
- なす、たばこには薬害を生じるおそれがあるので、からないように注意して散布してください。
- かきに使用する場合は、果実の着色直前以降は薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- かき、ぶどうは樹勢の弱い場合には薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- ほうれんそうに使用する場合、高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- ガーベラには品種（パープルレイン、マンボなど）によっては薬害を生じるおそれがあるのであらかじめ薬害のないことを確かめたうえで使用してください。
- 本剤を側条施用する場合は次の注意を守ってください。
  - 同一の害虫を防除対象とする育苗箱施用薬剤と併用すると薬害発生のおそれがあるのでさけてください。
  - 使用した機械を洗浄する際は、洗浄水が水路等に流入しないように注意してください。
  - アルカリ性ペースト肥料との混和は有効成分が分解するおそれがあるので、混和可能が確認されているペースト肥料以外との混和はさけてください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ってください。
  - 散布は各散布機の散布基準に従って実施してください。
  - 散布にあっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
  - 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
  - 散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
  - 散布終了後は次の事項を守ってください。
    - ・使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
    - ・機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
- ミナミキイロアザミウマの防除に使用する場合、生息密度が高まると効果が劣るので、初発を見たらただちに散布してください。なお、ミナミキイロアザミウマは繁殖が早いので、散布はかけ残しのないようていねいに行ってください。
- びわのナシヒメシンクイの防除に当っては、新梢、収穫跡、芽かき跡、剪定跡等に食入した幼虫を対象に散布してください。
- クビアカツヤカミキリの防除に使用する場合、成虫に直接かかるように散布してください。
- キウフルーツに使用する場合、新葉に薬害（黄変）が生じることがあるので注意してください。

- シクラメンに使用する場合は、あらかじめシクラメンに散布してみて薬害がないことを確かめた上で使用してください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。  
なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

#### 安全使用上の注意事項

- 蚕に対して長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、桑に付着するおそれのある場所では使用をさけてください。
- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤による中毒に対しては、動物実験でL-システィン製剤の投与が有効であると報告されています。
- 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落してください。
- 使用の際は保護眼鏡、防護マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをしてください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

#### 水産動植物に係る注意事項

- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚場では使用しないでください。
- 水産動植物（甲殻類・ドジョウ）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池等周辺での使用はさけてください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残液及び容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。

#### 保管に関する注意事項

- 直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。